### 4. 撤去された橋梁から切り取った供試体に対する各種加熱試験の結果

### 4.1 開放型ガス炉加熱試験結果

#### (1) 各供試体の温度履歴及び燃焼状況

開放型ガス炉加熱試験における各供試体の温度履歴及び供試体下面中央が各温度に到達したときの 燃焼状況を表 4.1.1(1)~(5)に示す。



表 4.1.1(1) 測定温度及び燃焼状況



#### 表 4.1.1(2) 測定温度及び燃焼状況



表 4.1.1(3) 測定温度及び燃焼状況



#### 表 4.1.1(4) 測定温度及び燃焼状況



#### 表 4.1.1(5) 測定温度及び燃焼状況

#### (2) 実橋供試体部材の開放型ガス炉加熱試験結果

#### ①塗膜の変状状況

開放型ガス炉加熱試験後の各供試体における塗膜損傷状況及び燃焼状況に対する所見を表 4.1.2(1)~(14)に示す。なお、同表には、各供試体の試験前の塗膜状況も併せて示す。

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.1-1	加熱試 験前		塗膜構成 
	400°C		<ul> <li>上塗りが灰化して灰色に 変色している。下塗りに 付着し、表面に細かい「わ れ」が生じている。</li> <li>上塗りのわれの隙間から 下塗りが露出し、黒く変 色している。</li> </ul>
No.1-2	加熱試 験前		
	700°C		<ul> <li>・ 上塗りが灰化しており、 中央部では付着し、端部 がはがれている。</li> <li>・ 上塗り付着部では、下塗 りの変色が移ったような 変色状況であり、オレン ジがかった灰白色となっ ている。</li> <li>・ 下塗りは、淡い茶色に変 色している。</li> </ul>

表 4.1.2(1) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.1 加熱面(熱源側))

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.1-1	加熱試 験前		途膜構成
	400°C		<ul> <li>上塗りが灰化して灰色に 変色して下塗りに付着し ており、表面に細かい「わ れ」が生じている。</li> <li>上塗りのわれの隙間から 露出している下塗りは、 ほとんど変色していな い。</li> </ul>
No.1-2	加熱試 験前		
	700°C		<ul> <li>・ 上塗りが灰化しており、 付着している箇所と、は がれている箇所が混在し ている。</li> <li>・ 上塗り付着部は、下塗り の変色が移ったようなオ レンジがかった灰白色と なっている。</li> <li>・ 下塗りが、淡い茶色に変 色している。</li> </ul>

表 4.1.2(2) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.1 非加熱面(熱源裏側))

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.2-1	加熱試 験前		塗膜構成 「「「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「
	400°C		<ul> <li>・ 上塗りが黒く変色し、小 さなはがれが生じてい る。</li> <li>・ 下塗りが赤みを帯びた色 に変色している。</li> </ul>
	700°C		<ul> <li>上塗りが灰化して白色となり、下塗りに付着している箇所と、はがれている箇所が混在している。</li> <li>下塗りが、400℃の場合と比較して淡い茶色に変色している。</li> </ul>

表 4.1.2(3) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.2 加熱面(熱源側))

※ 供試体 No.2 は、試験片が1体分のみしか採取できなかったため、400℃で試験を実施した後に、 再度 700℃で試験を実施している

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.2-2	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>・ 上塗りが炭化し、黒く 変色しており、ほとん どの部分でがれてい る。</li> <li>・ <u>下塗りが赤みを帯びた</u> <u>色に変色</u>している。</li> </ul>
	700°C		<ul> <li>400℃の場合に付着していた上塗りが灰化して白色となって付着している。</li> <li>下塗りが、400℃の場合と比較して淡い茶色に変色している。</li> </ul>

表 4.1.2(4) 開放型ガス炉加熱試験結果(No. 2 非加熱面(熱源裏側))

※ 供試体 No.2は、試験片が1体分のみしか採取できなかったため、400℃で試験を実施した後に、 再度700℃で試験を実施した。

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.4.1	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>・ 上塗りがはがれて、<u>下塗りの鉛丹さび止め塗料が白みを帯びた淡い茶色に変色</u>している。</li> <li>・ 赤茶色の中塗りが付着している箇所もある。</li> </ul>
No.4-2	加熱試 験前		
	700°C		<ul> <li> <ul> <li>             下塗り(鉛丹さび止め塗 料)が変色して濃い茶色 に変色して濃い茶色 に変色している。         </li> </ul> </li> <li> <ul> <li>             中塗りが灰化して付着し ている箇所が、下塗りの 色が移ったようなオレン ジがかった色に変色して いる。         </li> </ul> </li> </ul>

表 4.1.2(5) 開放型ガス炉加熱試験結果(No. 4 加熱面(熱源側))

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.4.1	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>・ 上塗りが表面に付着している。</li> <li>・ <u>下塗り(鉛丹さび止め)</u></li> <li>が白みを帯びた淡い茶色 に変色している。</li> </ul>
No.4-2	加熱試 験前		
	700°C		<ul> <li>         ・ <u>下塗りが鋼材表面に焼き</u> <u>付いて黒く変色してい</u> <u>る</u>。     </li> </ul>

表 4.1.2(6) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.4 非加熱面(熱源裏側))

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.5I-1	加熱試 験前	1	塗膜構成
	400°C		<ul> <li>         下塗り(鉛丹さび止め) が白みを帯びた淡い茶色 に変色している。      <li>         ・中塗りが付着している箇 所もある。     </li> </li></ul>
	700°C		<ul> <li>         下塗りが鋼材表面に焼き 付いて黒く変色してい ろ。(炭化による黒色化と は変状が異なる。)     </li> </ul>

表 4.1.2(7) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.5I 加熱面(熱源側))

※ 供試体 No.。5I は、試験片が1体分のみしか採取できなかったため、400℃で試験を実施した後 に、再度 700℃で試験を実施した。

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.5I	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>         下塗り(鉛丹さび止め) が白みを帯びた淡い茶色 に変色している。      </li> <li>         加熱試験中、はがれた上 塗りが供試体上面に載っ ていた箇所で、下塗りが 焦げ付いている。     </li> </ul>
	700°C		<ul> <li>         下塗りが鋼材表面に焼き 付いて黒く変色してい <u>る</u>。(炭化による黒色化と は変状が異なる。)     </li> </ul>

表 4.1.2(8) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.5I 非加熱面(熱源裏側))

※ 供試体 No.5I は、試験片が1体分のみしか採取できなかったため、400℃で試験を実施した後に、 再度 700℃で試験を実施した。

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.5B	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>         ・ <u>下塗り(鉛丹さび止め)</u> <u>が白みを帯びた淡い茶色</u> に変色している。     </li> </ul>
	700°C		<ul> <li>         ・ <u>下塗りが鋼材表面に焼き</u> <u>付いて黒く変色</u>してい る。(炭化による黒色化と は変状が異なる。)     </li> </ul>

表 4.1.2(9) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.5B 加熱面(熱源側))

※ 供試体 No.。5 B は、試験片が1 体分のみしか採取できなかったため、400℃で試験を実施した後 に、再度 700℃で試験を実施した。

供試体	基準温度	塗膜状況	所見
No.5B	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>・ 上塗り表面に大小の「ふ くれ」がみられる。</li> <li>・ 写真右側は上塗りがはが れて、<u>下塗りが露出</u>して いる。</li> </ul>
	700°C		・ <u>下塗りが白みを帯びた茶</u> <u>色に変色</u> している。

表 4.1.2(10) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.5B 非加熱面(熱源裏側))

※ 供試体 No.5B は、試験片が1体分のみしか採取できなかったため、400℃で試験を実施した後に、 再度 700℃で試験を実施した。



表 4.1.2(11) 開放型ガス炉加熱試験結果(No. 6 加熱面(熱源側))

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.6-1	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>・ 上塗りが炭化した状態で 付着している。</li> <li>・ 上塗り付着部の表面に は、「われ」が生じている。</li> </ul>
No.6-2	加熱試験前		
	700°C		<ul> <li>・ 灰化して白色化した上塗りが下塗りに付着している。</li> <li>・ 上塗りがはがれた箇所の 下塗りが、淡い茶色に変 色している。</li> </ul>

表 4.1.2(12) 開放型ガス炉加熱試験結果(No. 6 非加熱面(熱源裏側))

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No.7-1	加熱試 験前		塗膜構成
	400°C		<ul> <li>・ 上塗りが全体的にはがれている。</li> <li>・ <u>下塗りは、赤みを帯びた</u> <u>茶色に変色</u>している。</li> </ul>
No.7-2	加熱試 験前		
	700°C		<ul> <li>・ 灰化して白色化した上塗りが下塗りに付着している。</li> <li>・ 上塗りがはがれた箇所の下塗りが、400℃の場合よりも白みを帯びた淡い茶色に変色している。</li> </ul>

表 4.1.2(13) 開放型ガス炉加熱試験結果(No. 7 加熱面(熱源側))

供試体	基準 温度	塗膜状況	所見
No 7-1	加熱試 験前		塗膜構成
110.7-1	400°C		<ul> <li>上塗りが炭化して黒く変 色し、下塗りに付着して いる。上塗りがはがれた 箇所で、下塗りに焦げ付 いている箇所がみられ る。</li> <li>下塗りが、赤みを帯びた 茶色に変色している。</li> </ul>
No 7-9	加熱試 験前		
NO.7-2	700°C		<ul> <li>・ 灰化した上塗りが全体的 にはがれている。</li> <li>・ <u>下塗り</u>が、400℃の場合と 比較して<u>自みを帯びた淡</u> い茶色に変色している。</li> </ul>

表 4.1.2(14) 開放型ガス炉加熱試験結果(No.7 非加熱面(熱源裏側))

## ②膜厚との関係

試験後、供試体に残存している塗装の膜厚を測定した結果の一覧を表 4.1.3 及び図 4.1.1 に示す。 また、各供試体の膜厚測定位置及び測定結果を表 4.1.4(1)~(7)に示す。

	試験前膜厚		400°C			700°C				
	加熱面 非加熱面		非加熱面    加熱面		非加熱面		加熱面		非加熱面	
	膜厚	膜厚	浍壮	膜厚	沦壮	膜厚	沦壮	膜厚	沦壮	膜厚
供試体	(µm)	(µm)	坐衣	(µm)	坐衣	(µm)	坐衣	(µm)	坐衣	(µm)
No.1			上塗り付着部	115	上塗り付着部	138	上塗り付着部	126	上塗り付着部	198
10.1	149	281	下塗り	40	下塗り	44	下塗り	64	下塗り	70
			合計	155	合計	182	合計	190	合計	268
No 2			上塗り付着部	125	上塗り付着部	214	上塗り付着部	112	上塗り付着部	175
110.2	152	216	下塗り	62	下塗り	73	下塗り	52	下塗り	86
			合計	187	合計	287	合計	164	合計	261
			上塗り付着部	198	上塗り付着部	129	上塗り付着部	117	上塗り付着部	130
No.4	226	224	中塗り	85	下塗り	40	下塗り	66	下塗り	61
			下塗り	32						
			合計	117	合計	40	合計	66	合計	61
No EI			上塗り付着部	104	上塗り付着部	99	上塗り付着部	97	下塗り	78
10.51	311	324	下塗り	58	下塗り	62	下塗り	67		
			合計	162	合計	161	合計	164	合計	78
No EP			下塗り	68	上塗り付着部	113	下塗り	104	下塗り	47
NO.3D	261	326			下塗り	36				
			合計	68	合計	149	合計	104	合計	47
			下塗り	28	上塗り付着部	262	上塗り	49	上塗り付着部	141
No.6	224	248			下塗り	29	下塗り		下塗り	51
			合計	28	合計	291	合計	49	合計	192
			下塗り	102	上塗り	258	上塗り付着部	245	上塗り付着部	268
No.7	401	399			下塗り	51	下塗り	118	下塗り	110
			合計	102	合計	309	合計	363	合計	378

表 4.1.3 試験後の膜厚測定結果一覧



図 4.1.1 加熱後の膜厚測定結果

	表 4.1.4(1)	試験後の膜厚測定結果	(No. 1)
--	------------	------------	---------

		No. $1 - 1$	1(40)	00℃)			
加熱副	ā(熱源側)				非加熱面	(熱源裏側	)
0	4) (7		And States of the	1 (I) (1)	<b>0</b> 4		0
	(5) (8)			2	G	8	
3	6 12	9		3	6	9	
御古 時间(		<b>階</b> 回()		加占	时间()	测占	<b>時</b> 同()
<u>例</u> 尽	<u>m) 例</u> . 7	展厚(μm) 1/1			脵厚(μm) 153	<u>例</u> . 7	<u>)</u> ,展/亭(μm) 150
2 84	8	108		2	153	8	178
3 137	9	94		3	147	9	159
4 109	10	42		4	89	10	39
5 103	11	48		5	85	11	53
6 133	12	30	[	6	125	12	40
平均膜厚 上塗り付着	部 115 り 40	$\mu$ m $\mu$ m		平均膜厚	上塗り付着部 下塗り	138 44	$\mu$ m $\mu$ m
- ++= +		No.1-2	2(70	00℃)			N
加熱可	面(熱源側)	No.1-2	2(70	0°C)	非加熱面	(熱源裏側	)
加熱a 1	ā (熱源側) 2) 3 8) (9)	No.1-2		00°C)	非加熱面(	(熱源裏側 ( の) ( ( )	
	ā (熱源側) 2) 3 3 5 12	No.1-2			非加熱面( 4 5 6	(熱源裏側 ⑦ ① ⑧ ① ⑨	
加熱ii	ā (熱源側) 2 3 8 5 ① n) 測点	No.1-2		D0℃)	非加熱面 ④ ⑤ ⑥ 膜厚(μm)	(熱源裏側 ⑦ ① ⑧ 測点	) ② ③ 関厚(µm) 162
加熱i 1 ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・④ ・⑦ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③ ・③	a (熱源側) 2) 3 8) 5 10 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	No.1-2		DO℃)	非加熱面( 4) 5) 6) 膜厚(µm) 56 82	(熱源裏側 ⑦ ① ③ ① 測点 7 8	) 2 3 膜厚(μm) 162 195
加熱i の の 別点 膜厚(µ 1 78 2 57 3 65	n) 測点 7 8 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	No.1-2		DO℃) ① ① ② ② ③ ③ □ ③ ③ ③ ③ □ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③	非加熱面 (4) (5) (6) 膨厚(µm) 56 82 73	(熱源裏側 7 0 8 0 9 2 1 1 6 7 8 9	) ② ③ 】 〕 ③ 〕 〕 ③ 〕 〕 ③ 〕 〕 ③ 〕 〕 ③ 〕 〕 ③ 〕 〕 〕 ③ 〕 〕 〕 ③ 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 ③ 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕
加熱i の ・ ④ ・ ④ ・ ⑦ ・ ⑦ ・ ⑦ ・ ⑦ ・ ⑦ ・ ⑦ ・ ⑦ ・ ⑦	a (熱源側) 2) 3 (8) 5 (2) (3) (3) (5) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	No.1-2		DO℃) ① ① ① ① ② ③ 1 2 3 4	非加熱面( 4) (5) (6) 期厚(µm) 56 82 73 147	(熱源裏側 <b>7</b> 10 10 11 11 11 11 11 11 11 11	) 2 2 3 膜厚(µm) 162 195 145 218
加熱i の ・ ④ の で う の で の で の で の で の で の で の で の で の	n) 測点 7 8 9 10 11	No.1-2		DO℃) ① ① ① ② ② ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③	非加熱面 (4) (5) (6) 膨厚(µm) 56 82 73 147 199	(熱源裏側 7 0 10 10 11	) 2 3 膜厚(μm) 162 195 145 218 244
加熱i の の 割点 膜厚(μ 1 78 2 57 3 65 4 83 5 49 6 54	a (熱源側) 2 3 3 3 5 12 12	No.1-2 10 6 度厚(µm) 124 132 176 127 98 99		DO℃) ① ① ① ② ② ③ ① ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③	非加熱面 (4) (5) (5) (6) 期厚(µm) 56 82 73 147 199 262	(熱源裏側 ⑦ ① ⑧ ① ⑨ <sup>111</sup> 12	) 2 3 膜厚(µm) 162 195 145 218 244 210



#### 表 4.1.4(2) 試験後の膜厚測定結果 (No.2)

$N_{0.4} - 1 (400 \degree C)$					
加熱面(熱源側)	非加熱面(熱源裏側)				
測点 膜厚(μm) 測点 膜厚(μm)	測点 膜厚(μm) 測点 膜厚(μm)				
1 27 7 80	1 151 7 30				
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
5 30 11 292	5 112 11 43				
6 27 12 123	6 135 12 38				
平均膜厚 上塗り付着部 198 µm 中塗り 85 µm 下塗り 32 µm	平均膜厚 上塗り付着部 129 µm 下塗り 40 µm				
	(700℃) 1に加熱云(熱源東畑)				
No.4-2 加熱面 (熱源側) 5 4 9 10 6 7	(700℃) 非加熱面(熱源裏側) ④ ⑦ ① ② ③ ③ ① ③ ③ ③ ③ ③ ④ ④ ④ ④				
No.4-2 加熱面 (熱源側)	(700℃) 非加熱面(熱源裏側) ④ ⑦ ① ① ③ ① ⑤ ③ ① ④ ①				
No.4-2       加熱面 (熱源側)       5     4       0     1       0     0 <td>(700℃) 非加熱面(熱源裏側) ④ ⑦ ① ② ③ ① ⑤ ⑧ ① ② ② ② ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ○ ① □ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</td>	(700℃) 非加熱面(熱源裏側) ④ ⑦ ① ② ③ ① ⑤ ⑧ ① ② ② ② ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ③ ① ○ ① □ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				
$N_0.4-2$ 加熱面 (熱源側) 5 4 9 0 6 7 9 0 6 7 0 0 2 3 8 4 <u>測点 膜厚(<math>\mu</math> m) 測点 膜厚(<math>\mu</math> m) 1 141 7 62 2 91 8 87</u>	(700℃) 非加熱面(熱源裏側) ④ ⑦ ① ② ③ ① ⑤ ⑧ ① ① ③ ① ⑥ ⑧ ① ① ③ ① ⑥ ⑧ ① ① ③ ① ⑥ ⑧ ① ① ① ① ◎ ① ① ◎ ① ① ◎ ① ① ◎ ① ① ○ ① ① ○ ① ① ○ ① ① ○ ① ① ○ ① ① ○ ① ① ○ ② ① ② ① ○ ② ① ② ① ○ ② ① ② ① ○ ② ① ② ① ○ ② ① ② ① ○ ② ① ② ① ○ ② ① ○				
$\frac{N_0.4-2}{10}$ 加熱面 (熱源側) <b>⑤</b> (熱源側) <b>⑤</b> (小の) <b>⑥</b> (小の) <b>⑥</b> (小の) <b>⑦</b> (小の) <b>⑧</b> (小の) <b>⑧</b> (小の) <b>⑧</b> (小の) <b>⑧</b> (小の) <b>⑧</b> (小の) <b>⑧</b> (小の) <b>1</b> (141) <b>7</b> (62) <b>2</b> 91) <b>8</b> 87 <b>3</b> (122) <b>9</b> 87	(700℃) 非加熱面(熱源裏側) ④ ⑦ ① ② ③ ③ ① ⑤ ⑧ ① ① ⑤ ⑧ ① ① ⑥ ① ① ② ③ ① ⑥ ① ① ⑥ ① ① ⑥ ① ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ① ② ① ⑦ ② ① ② ⑦ ① ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ② ③ ② ③ ② ③ ② ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ③ ④ ④ ④ ④				
$N_{0.4} - 2$ 加熱面 (熱源側) ⑤ ④ ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ①	(700℃) 非加熱面(熱源裏側) ④ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦				
$N_0.4-2$ 加熱面 (熱源側) (5) 4 9 0 (9) 0 (6) 7 0 0 (2) 3 8 4 (2) 3 8 4 (2) 3 8 4 (2) 3 8 5 (3) 122 9 87 (4) 113 10 43 (5) 66 11 54 (6) 51 12 82	(700°C) 非加熱面 (熱源裏側) ④ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦				

## 表 4.1.4(3) 試験後の膜厚測定結果 (No.4)



#### 表 4.1.4(4) 試験後の膜厚測定結果(No.5I)

No.5B(400°C)					
加熱面(熱源側)	非加熱面(熱源裏側)				
1 7 1					
2 5 8 1	2 5 1				
3 6 9 12	3 6 9 12				
測点膜厚(μm)測点膜厚(μm)178750	測点膜厚(µm)測点膜厚(µm)1120737				
2 123 8 55	2 152 8 39				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	3 93 9 43 4 102 10 37				
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$				
6 78 12 57	6 117 12 30				
平均膜厚 下塗0 68 μm No 5B (	平均膜厚 上塗り 113 µm 下塗り 36 µm				
加熱面(熱源側)	非加熱面(熱源裏側)				
5 (3) 6 (7) (8) 9	3 6 9 12				
測点膜厚( $\mu$ m)測点膜厚( $\mu$ m)1967122210489531029105498101285103119269412105	測点膜厚( $\mu$ m)測点膜厚( $\mu$ m)147741241845352957445103655511446461260				
平均膜厚 下塗り 104 µm	平均膜厚 下塗り 47 µm				

## 表 4.1.4(5) 試験後の膜厚測定結果 (No.5B)



#### 表 4.1.4(6) 試験後の膜厚測定結果 (No.6)

No.7-1	(400°C)
加熱面(熱源側)	非加熱面(熱源裏側)
測点 膜厚(µm) 測点 膜厚(µm)	測点 膜厚(µm) 測点 膜厚(µm)
1  104  7  99	$\begin{array}{c c} 1 & 56 & 7 & 70 \end{array}$
2 94 8 115	2 48 8 46
3 112 9 89	3 41 9 43
4 81 10 108	4 201 10 325
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
0 104 12 130	0 119 12 497
平均膜厚 下塗り 102 μm	平均膜厚 上塗り 258 μm 下塗り 51 μm
加熱面(熱源側)	非加熱面(熱源裏側)
測点 膜厚(μm) 測点 膜厚(μm)	
1 125 7 241	1 122 7 108
2 114 8 231	2 112 8 103
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	3 103 9 76
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
6         189         12         261	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$
平均膜厚 上塗り付着部 245 µm 下塗り 118 µm	平均膜厚 上塗り付着部 268 µm 下塗り 110 µm

## 表 4.1.4(7) 試験後の膜厚測定結果 (No.7)

開放型ガス炉加熱試験の結果、塗装鋼板供試体と同様、実橋供試体 No. 2, 4, 5I, 7 では加熱温度 400℃ で下塗りに変色等の変状があった。しかしながら、実橋供試体 No. 1, 5B, 7 非加熱面においては、400℃ で変状が生じなかった。そこで、下塗りの変状の有無ごとに、膜厚との関係を整理した結果を図 4.1.2 に示す。

これらの結果からもわかるとおり、膜厚と下塗りの変状の有無とは特に大きな関連が無いことがわかった。



(a) 加熱面(熱源側)
 (b) 非加熱面(熱源裏側)
 図 4.1.2 加熱温度 400℃における下塗りの変状の有無と膜厚の関係

#### (3)まとめ

## ①塗膜の変状

実橋供試体における電気炉加熱試験の供試体全体の変色状況を、表4.1.5(1),(2)に整理した。 いずれの供試体においても、上塗りが炭化して灰化する過程で剥がれながら、下塗りが変色する状 況であった。また、塗膜の変状を一般化した指標と加熱温度の関係について、図4.1.3に示す。いず れの鋼板においても、加熱面は400℃に至るまでに下塗りが変色しており、非加熱面についても多く は下塗りが変色(変状4)、少なくとも全ての鋼板で上塗りが炭化し剥がれが生じている(変状2)状 況であった。

温度 (℃)	1	2	4	51	5B	6	7
加熱 試験 前							
400							
	⑤黒く変色	⑤赤みを帯 びた色に変 色	<ul><li>⑤鉛丹さび</li><li>止め塗料淡</li><li>い茶色</li></ul>	⑤鉛丹さび止 め塗料淡い 茶色	<ul><li>⑤鉛丹さび</li><li>止めが淡い</li><li>茶</li></ul>	⑤赤みを帯び た茶色	5 赤みを帯 びた茶色
700							
	⑤淡い茶色	⑤淡い茶色	⑤鉛丹さび 止め塗料濃 い茶色	<ul><li>⑥鋼材表面に</li><li>焼き付いて</li><li>黒く変色</li></ul>	⑥鋼材表面 に焼き付い て黒く変色	⑤淡い茶色	<ul><li>⑤白みを帯び</li><li>た淡い茶色</li></ul>

表4.1.5(1) 開放型ガス炉加熱試験結果(加熱側)



表 4.1.5(2) 開放型ガス炉加熱試験結果(非加熱側)



図 4.1.3 変状を一般化した指標と加熱温度の関係(開放型ガス炉加熱試験)

#### ②実橋供試体と、供試体の加熱結果の比較

撤去橋鋼板と鋼板供試体の変状を一般化した指標と加熱温度の関係について、表4.1.6 に示す。い ずれにおいても加熱面については、400℃までに上塗りが炭化、剥離(変状2)し、600℃に至るまで に下塗りに変色(変状4)が生じている。また、非加熱面についても400℃までに上塗りが炭化、剥離 (変状2)し、700度に至るまでに下塗りに変色(変状4)が生じている。



表 4.1.6 変状を一般化した指標と加熱温度の関係(開放型ガス炉加熱試験)

実橋供試体と鋼板供試体の試験結果を、開放型ガス炉加熱試験の熱源側の塗膜状況について比較した結果を表4.1.10に示す。なお、今回実施した実橋供試体のうち、新規に作成したA-1~C-5供試体と比較が可能であるのは、No.1、No.2、No.6の3種類の供試体である。No.1は、上面に塩化ゴム系の塗料が使用されているため、鋼板供試体のB-1と比較した(No.1の下塗りはエポキシ樹脂であるため、下塗りの変状については比較できない)。また、No.2及びNo.6は、塗膜構成が同様である鋼板供試体のA-1塗装系と比較した。

表4.1.7より、400℃で実施した供試体を比較すると、両供試体ともに上塗りである塩化ゴム系塗料 が灰化して濃い灰色に変色するものの、はく離せず細かな割れを伴って付着している状況であり、同 様の傾向を示しているといえる。ただし、割れの状況は、鋼板供試体の方がより細かい割れを生じて いる。700℃で実施した供試体は、両供試体ともに下塗りの変色が認められる。ただし、撤去橋鋼板の 下塗りがエポキシ樹脂塗料であるのに対して、B-1塗装系ではシアナミド鉛ペイントを使用している ため下塗りの変色状況は直接比較できない。

表 4.1.7(1),(2) 及び表 4.1.8 は、ともに A-1 塗装系と考えられる実橋供試体と、鋼板供試体の A-1 塗装系を比較したものであり、400℃及び 700℃の両実施温度の塗膜の変状は、ほぼ同様の変色状況である。

基準温度	実橋供試体 No.1-1	鋼板供試体 B-1 塗装系
加熱 試験前		
400°C		
700℃		

表 4.1.7(1) 実橋供試体と鋼板供試体との比較(No.1とB-1の比較 開放型ガス炉(加熱面))

表 4.1.7(2)	実橋供試体と鋼板供試体との比較	(No.2とA-1の比較	開放型ガス炉(加熱面))
2 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			

基準温度	実橋供試体 No.2	鋼板供試体 A-1 塗装系		
加熱 試験前				
400°C				
700°C				

基準 温度	実橋供試体 No.6	鋼板供試体 A-1 塗装系
加熱 試験前	5	
400°C		
700°C		

表4.1.8 実橋供試体と鋼板供試体との比較(No.6とA-1の比較 開放型ガス炉(加熱面))

# 4.2電気炉加熱試験の結果

## (1) 試験後の塗膜状況一覧

開放型ガス炉加熱試験後の各供試体における塗膜損傷状況及び燃焼状況に対する所見を表 4.2.1(1)~(16)に示す。

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>上塗りがやや黒み帯びた 色に変色している。(加 熱試験前と比較して変色 が判別できる程度のわず かな変色である。)</li> </ul>	1)
300℃			・ 上塗りが炭化して黒く変 色している。	2
400℃			<ul> <li>上塗りが灰化して濃い灰</li> <li>色に変色しており、小さな「われ」が伴って下塗りに付着している。</li> </ul>	3
500℃			<ul> <li>・ 上塗りが灰化して白色化 した状態で付着してい る。</li> </ul>	
600°C	1-5		・ 上塗りがはがれており、 <u>下塗りは薄い茶色</u> に変色 している。	(5)
700°C	1-5		<ul> <li>下塗りが細かい「われ」 が生じて付着している箇 所と、下塗りがはがれて 素地が露出している箇所 がある。</li> </ul>	6

表 4.2.1(1) 電気炉試験結果(No.1 上面)

基準温 度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C	-		<ul> <li>上塗りがやや黒み帯 びた色に変色してい る。(加熱試験前と 比較して変色が判別 できる程度のわずか な変色である。)</li> </ul>	1)
300°C			・ 上塗りが炭化して黒 く変色している。	2
400°C			<ul> <li>上塗りが灰化して濃い灰色に変色しており、小さな「われ」が伴って下塗りに付着している。</li> </ul>	4
500°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化して白 色化した状態で付着 している。</li> </ul>	4
600°C			・ 上塗りが灰化しては がれており、 <u>下塗り</u> <u>は薄茶色に変色</u> して いる。	5
700°C			<ul> <li>・ 下塗りが淡い茶色に 変色している。</li> <li>・ 端部では下塗りがは がれている。</li> <li>・ 下塗りの変色状況は 600℃と同様である。</li> </ul>	(5)

## 表 4.2.1(2) 電気炉試験結果(No.1 下面)

基準温 度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			・ ほとんど変色していな い。	
300°C			・ 上塗りが炭化して黒く 変色している。	2
400°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して黒く 変色している。</li> <li>・ 上塗りがはがれた箇所 では<u>下塗りが露出</u>して いるが、ほとんど変色し ていない。</li> </ul>	4
500°C			<ul> <li>上塗りが灰化して白く 変色している。</li> <li>上塗りがはがれた箇所 で露出している。</li> <li><u>下塗りが、淡い茶色</u>に変 色している。</li> </ul>	5
600°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態 で下塗りに付着してい る。</li> <li>・ 下塗りは 500℃の場合よ り、さらに薄茶色に変色 している。</li> </ul>	5
700℃			<ul> <li>上塗りが灰化した状態 で下塗りに付着してい る。</li> <li>下塗りが緑がかった色 に変色している。</li> </ul>	5

表 4.2.1(3) 電気炉試験結果(No.2 上面)
基準温 度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			・ ほとんど変色してい ない。	
300°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して黒 く変色している。</li> <li>・ 下塗りがほとんど変 色しておらず、変状は みられない。</li> </ul>	2
400°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して黒 く変色した状態で付 着している。</li> <li>・ 上塗りがはがれた箇 所では<u>下塗</u>りが露出 しているが、<u>やや薄い</u> 茶色に変色している。</li> </ul>	4
500°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化して白く変色している。</li> <li>・ 下塗りが、淡い茶色に変色している。</li> </ul>	(5)
600°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態で下塗りに付着している。</li> <li>・ 下塗りが 500℃の場合より、さらに薄茶色に変色している。</li> </ul>	5
700℃			<ul> <li>上塗りが灰化した状態で下塗りに付着している。</li> <li>下塗りが緑がかった色に変色している。</li> </ul>	(5)

表 4.2.1(4) 電気炉試験結果(No.2下面)

基準温 度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>・ 上塗りがやや黒み帯び た色に変色している。</li> <li>・ 上塗りに「ふくれ」が生 じて、浮いている箇所が みられる。</li> </ul>	1
300°C			・ 上塗りが炭化して黒く 変色している。	1)
400°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して黒く 変色し、小さいわれが生 じた状態で付着してい る。</li> </ul>	2
500°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態</li> <li>で付着している。</li> </ul>	2
600°C			<ul> <li>上塗りが灰化した状態</li> <li>で付着している。</li> </ul>	2
700°C			<ul> <li>         ・ <u>下塗りがはがれて素地</u> が露出している。     </li> </ul>	6

表 4.2.1(5) 電気炉試験結果 (No. 3 上面)

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			・変状はみられない。	
300°C			・変状はみられない。	
400°C			<ul> <li>やや茶色がかった色に 変色している。</li> </ul>	1
500°C			・ 茶色に変色している。	1
600°C			<ul> <li>・ 淡い茶色に変色している。はがれて<u>素地が露</u> <u>出</u>している箇所もみられる。</li> </ul>	6
700°C			<ul> <li>はがれて素地が露出し ている。</li> </ul>	6

表 4.2.1(6) 電気炉試験結果(No.3 下面)

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>変色はほとんどみられない。</li> <li>「ふくれ」や「はがれ」が生じている箇所がある。</li> <li>はがれた箇所から露出している下塗りに変状はみられない。</li> </ul>	2
300℃			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して全体 的にはがれている。</li> <li>・ <u>下塗りが濃い茶色に変</u> <u>色</u>している。</li> </ul>	5
400℃			<ul> <li>上塗りが灰化した状態 で付着している。</li> <li>下塗りから色が移った ような状態で、茶色い 色調である。</li> <li>下塗りが黒味を帯びた 色に変色している。</li> </ul>	5
500°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態 で付着している。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯びた 淡い茶色に変色してい る。</li> </ul>	5
600°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態 で付着している。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯びた 淡い茶色に変色してい る。</li> </ul>	5
700℃			<ul> <li>・下塗りが濃い茶色に変 色している。</li> <li>・端部では、下塗りがは がれて素地が露出して いる箇所がある。</li> </ul>	6

表 4.2.1(7) 電気炉試験結果(No.4 上面)

基準温 度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>変色はほとんどみられない。</li> <li>上塗りが「ふくれ」や「はがれ」が生じている箇所がある。</li> <li>はがれた箇所から露出している下塗りに変状はみられない。</li> </ul>	2
300℃			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して全体 的にはがれている。</li> <li>・ <u>下塗りが濃い茶色に変</u> <u>色</u>している。</li> </ul>	⑤濃い茶色
400°C			<ul> <li>上塗りが灰化した状態 で付着している。</li> <li>下塗りから色が移った ような状態で、茶色い 色調である。</li> <li>下塗りが黒味を帯びた 色に変色している。</li> </ul>	⑤黒
500°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態 で付着している。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯びた 淡い茶色に変色してい る。</li> </ul>	⑤薄茶色
600℃			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態 で付着している。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯びた 淡い茶色に変色してい る。</li> </ul>	⑤薄茶色
700℃			<ul> <li>下塗りが濃い茶色に変 色している。</li> <li>端部では、下塗りがは がれて素地が露出して いる箇所がある。</li> </ul>	6

## 表 4.2.1(8) 電気炉試験結果(No.4 下面)

基準温 度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>・ 上塗りがやや黒く変 色し、「われ」が生じ ている</li> </ul>	2
300°C	11-2		<ul> <li>・ 上塗りが炭化しては がれている。</li> <li>・ <u>下塗りが黒く変色</u>し ている。</li> </ul>	5
400°C	#4		<ul> <li>・ 上塗りが炭化しては がれている。</li> <li>・ 下塗りが黒く変色し ている。</li> </ul>	5
500°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化して全 体的に付着している。</li> </ul>	5
600°C			<ul> <li>・ 上塗りがほとんどは がれている。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯び た茶色に変色してい る。</li> </ul>	5
700℃			<ul> <li>・ 下塗りが鋼材表面に 焼き付いて黒く変色 している。</li> </ul>	6

表 4.2.1(9) 電気炉試験結果(No	5 I	上面)
-----------------------	-----	-----

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>上塗りがやや黒く変 色し、「われ」が生じ ている。</li> </ul>	2
300°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化しては がれている。</li> <li>・ <u>下塗りが黒く変色</u>し ている。</li> </ul>	5
400℃			<ul> <li>・ 上塗りが炭化した状態で付着している。</li> </ul>	5
500°C	<b>8-1</b>		<ul> <li>・ 上塗りが灰化してほ とんどはがれている。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯び た淡い茶色に変色し ている。</li> </ul>	5
600°C			・ 下塗りが 500℃の場合 より濃い茶色に変色 している。	(5)
700°C			<ul> <li>下塗りが鋼材表面に 焼き付いて黒く変色 している。</li> </ul>	6

表 4.2.1(10) 電気炉試験結果(No.5I 下面)

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>上塗りがやや黒く変色 している</li> </ul>	1
300°C	31-2		<ul> <li>・ 上塗りが炭化してはが れている。</li> <li>・ <u>下塗りが黒く変色</u>して いる。</li> </ul>	5
400°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化した状態</li> <li>で付着している。</li> </ul>	5
500°C	54		<ul> <li>・ 上塗りが灰化してほとんどはがれている。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯びた淡い茶色に変色している。</li> </ul>	5
600℃	50-5		・ 下塗りが 500℃の場合 より濃い茶色に変色し ている。	(5)
700°C			<ul> <li>下塗りが鋼材表面に焼 き付いて黒く変色して いる。</li> </ul>	6

表 4.2.1(11) 電気炉試験結果 (No. 5 B 上面)

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			・ 変状はみられない。	
300℃			<ul> <li>・ 上塗りがやや炭化が進行 して、黒味が淡くなって いる。</li> </ul>	3
400°C			<ul> <li>上塗りが炭化してはがれ ている。</li> </ul>	3
500°C			・ <u>下塗りが白みを帯びた茶</u> <u>色</u> に変色している。	(5)
600°C			<ul> <li>500℃の場合と比較して、</li> <li>下塗りがより白みを帯びた茶色に変色している。</li> <li>表面には「ふくれ」がみられる。</li> </ul>	5
700°C			<ul> <li>・下塗りが白みを帯びた茶 色に変色している。</li> <li>・ 600℃の場合から大きな 変化はみられない。</li> </ul>	(5)

表 4.2.1(12) 電気炉試験結果(No.5B 下面)

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>変色はほとんどみられない。ただし、数箇所で「ふくれ」が生じている。</li> </ul>	1)
300℃			<ul> <li>上塗りが炭化してはが れている。</li> <li><u>下塗りが黒く変色</u>して いる。</li> </ul>	5
400°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して黒く 変色した状態で付着し ている。</li> </ul>	5
500℃			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態 で、端部に付着してい る。</li> <li>・ 下塗りが淡い茶色に変 色している。</li> </ul>	5
600°C			<ul> <li>・ 灰化した状態の上塗り が全体的に付着してい る。</li> <li>・ 下塗りが淡い茶色に変 色している。なお、600℃ の場合から大きな変色 ではない。</li> </ul>	5
700℃			<ul> <li>・ 灰化した状態の上塗り が端部に付着している。</li> <li>・ 下塗りが 700℃の場合 と比較して、より淡い茶 色に変色している。</li> </ul>	(5)

(NO, O	衣 4.2.1(13)	龟风炉矾缺杧朱	(NO. 6	上面)
--------	-------------	---------	--------	-----

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>変色がほとんどみられない。ただし、数箇所で「ふくれ」が生じている。</li> </ul>	1)
300°C			<ul> <li>上塗りが炭化してはが れている。</li> <li><u>下塗りが黒く変色</u>して いる。</li> </ul>	4
400°C			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して黒く 変色した状態で付着し ている。</li> </ul>	5
500°C			<ul> <li>・ 上塗りが灰化した状態 で、端部に付着してい る。</li> <li>・ 下塗りが淡い茶色に変 色している。</li> </ul>	5
600°C			<ul> <li>・ 灰化した状態の上塗り が端部に付着している。</li> <li>・ 下塗りが淡い茶色に変 色している。なお、600℃ の場合から大きな変色 ではない。</li> </ul>	5
700℃	•		<ul> <li>         ・ 灰化した状態の上塗り         が付着している箇所、下         塗りが淡い茶色に変色         している箇所、下塗りが         はがれて素地が露出し         ている箇所が混在して         いる。     </li> </ul>	(5)

表	4.2.	1(14)	電気炉試験結果	(No.	6	下面)
---	------	-------	---------	------	---	-----

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>上塗りがやや黒みを帯 びた色に変色している。</li> </ul>	1)
300℃			<ul> <li>・ 上塗りが炭化して全体 的にはがれている。</li> <li>・ <u>下塗りに上塗りの炭化</u> 成分が付着しており、全 体的に黒く変色してい る。</li> </ul>	2
400°C	7-3		<ul> <li>・ 上塗りが炭化し、小さな 「われ」が生じている。</li> <li>・ 下塗りが茶色に変色し ている。</li> </ul>	4
500°C			<ul> <li>         ・ 灰化して白色化した上 塗りが全体的に付着し ている。     </li> </ul>	3
600°C	7-5		<ul> <li>・ 灰化した上塗りがほとんどはがれている。</li> <li>・ 下塗りが赤みがかった淡い茶色に変色している。</li> </ul>	4
700℃	7-4		<ul> <li>・ 灰化した上塗りが付着 している。</li> <li>・ 下塗りが白みを帯びた 茶色に変色している。</li> </ul>	4

表 4.2.1(15) 電気炉試験結果 (No. 7 上面)

基準 温度	加熱試験前	塗膜損傷状況	所見	段階の 一般化
200°C			<ul> <li>・ 上塗りがやや黒みを帯 びた色に変色してい る。</li> <li>・ 上塗りの表面に「われ」 が生じている。</li> </ul>	Û
300℃			<ul> <li>上塗りが炭化して全体 的にはがれている。</li> <li>下塗りが上塗りの炭化 成分が付着しており、 全体的に黒く変色して いる。</li> </ul>	2
400℃			<ul> <li>上塗りが炭化した状態 で、「われ」が生じてい る。</li> <li>下塗りが茶色に変色し ている。</li> </ul>	4
500°C			<ul> <li>         ・        灰化して薄茶色に変色 した上塗りが付着して いる。         ・        下塗りが赤みがかった 淡い色に変色してい る。         </li> </ul>	4
600℃			<ul> <li>・ 灰化した上塗りがほとんどはがれている。</li> <li>・ 下塗りが赤みがかった淡い色に変色している。</li> </ul>	4
700℃			・ 下塗りが白みを帯びた 茶色に変色している。	4

表 4.2.1(16) 電気炉試験結果(No.7 下面)

## (2) 各供試体の温度履歴及び燃焼状況

電気炉加熱試験における各供試体の温度履歴を図4.2.1に示す。





## (3) 試験後の膜厚測定結果

試験後、供試体に残存している塗装を膜厚計にて測定した平均膜厚結果の一覧を表 4.2.2(1),(2)及 び図 4.2.2(1), (2)に示す。また、各供試体の膜厚測定位置及び測定結果を図 4.2.3(1), (2)及び表 4.2.3(1)~(8)に示す。

なお、上塗りが剥離している場合は下塗りの膜厚を計測し、上塗りが剥離していない場合は総膜厚 である。

雷気炉	試験前	200°C		300°C		400	C 500°		C	600°C		700℃		
加熱試験 (下面)	膜厚	膜厚	途装	膜厚	途装	膜厚	途装	膜厚	途装	膜厚	途装	膜厚	途装	膜厚
	(面1)※		(μm)		(μm)	1.71	(μm)		(μm)		(μm)		(μm)	
No.1	140	上塗り	119	上塗り	160	上塗り	157	上塗り	126	上塗り	191	下塗り	70	
10.1	149							下塗り	67	下塗り	19			
No 2	152	上塗り	193	上塗り	218	上塗り	101	上塗り付着部	151	下塗り	75	下塗り	132	
110.2	102			下塗り	111	下塗り	53	下塗り	73					
No 2		下塗り	20	下塗り	24	下塗り	19	下塗り	23	下塗り	21	下塗り	はく離	
10.5	_													
No.4	226	上塗り	238	上塗り	186	上塗り	137	上塗り	149	上塗り	173	上塗り	148	
10.4				下塗り	50	下塗り	40	下塗り	31	下塗り	57	下塗り	45	
No 51	311	上塗り	305	下塗り	111	中塗り	156	中塗り	118	下塗り	80	下塗り	80	
10.51						下塗り	65	下塗り	64					
N. ED	261	上塗り	197	上塗り	149	下塗り	72	下塗り	35	下塗り	47	下塗り	50	
N0.3D														
NL C	0.0.4	上塗り	234	下塗り	37	上塗り	343	下塗り	35	上塗り	155	下塗り	87	
10.0	224					下塗り	26			下塗り	51			
No.7	40.1	上塗り	浮き	下塗り	80	上塗り	212	上塗り	174	下塗り	84	下塗り	131	
	401					下塗り	83	下塗り	74					

表 4.2.2(1) 試験後の膜厚測定結果一覧(上面)



図 4.2.2(1) 試験後の膜厚測定結果(上面)

雷気炉	試験前	200°C		200°C 300°C		400	°C	500°	C 600		С	700°C	
加熱試験 (上面)	膜厚 (面2)※	塗装	膜厚 (μm)	塗装	膜厚 (μm)	塗装	膜厚 (μm)	塗装	膜厚 (μm)	塗装	膜厚 (μm)	塗装	膜厚 (μm)
	0.01	上塗り	165	上塗り	194	上塗り	193	上塗り	190	下塗り	97	下塗り	87
No.1	281												
No 2	216	上塗り	126	上塗り	127	上塗り	121	上塗り付着部	177	上塗り付着部	91	上塗り付着部	173
10.2	210					下塗り	50	下塗り	71	下塗り	66	下塗り	98
No 2	406	上塗り	430	上塗り	浮き	上塗り	浮き	上塗り付着部	308	上塗り付着部	222	下塗り	はく離
110.5	400							下塗り	65				
No 4	224	上塗り	204	下塗り	61	上塗り	157	上塗り	167	上塗り	187	上塗り	186
110.4						下塗り	36	下塗り	35	下塗り	82	下塗り	39
No 51	324	上塗り	352	上塗り	238	中塗り	139	中塗り	135	下塗り	62	下塗り	91
10.51		下塗り	113	下塗り	111	下塗り	65	下塗り	73				
		上塗り	302	下塗り	108	中塗り	198	中塗り	187	上塗り付着部	218	下塗り	101
No.5B	326					下塗り	86	下塗り	70	中塗り	150		
										下塗り	48		
No 6	949	上塗り	272	下塗り	36	上塗り	370	下塗り	35	上塗り	173	下塗り	53
110.0	240					下塗り	24			下塗り	32		
No 7	300	上塗り	439	下塗り	119	上塗り	368	上塗り	249	上塗り	342	上塗り	275
10.7	599					下塗り	45	下塗り	73	下塗り	134	下塗り	111

表 4.2.2(2) 試験後の膜厚測定結果一覧(下面)

















(b)供試体 No. 2



(d)供試体 No. 4



(f)供試体 No5B



図 4.2.3(1) 試験後の膜厚測定結果(上面)





表 4.2.3(1) 試験後の膜厚測定結果(No.1)(1/3)



表 4.2.3(1) 試験後の膜厚測定結果(No.1)(2/3)



表 4.2.3(1) 試験後の膜厚測定結果(No.1)(3/3)



表 4.2.3(2) 試験後の膜厚測定結果(No.2)(1/3)



表 4.2.3(2) 試験後の膜厚測定結果(No.2)(2/3)



表 4.2.3(2) 試験後の膜厚測定結果(No.2)(3/3)



表 4.2.3(3) 試験後の膜厚測定結果(No.3)(1/3)



表 4.2.3(3) 試験後の膜厚測定結果(No.3)(2/3)



表 4.2.3(3) 試験後の膜厚測定結果(No.3)(3/3)



表 4.2.3(4) 試験後の膜厚測定結果(No.4)(1/3)



表 4.2.3(4) 試験後の膜厚測定結果(No.4)(2/3)



## 表 4.2.3(4) 試験後の膜厚測定結果(No.4)(3/3)



表 4.2.3(5) 試験後の膜厚測定結果(No.5I)(1/3)





表 4.2.3(5) 試験後の膜厚測定結果(No.5I)(3/3)



表 4.2.3(6) 試験後の膜厚測定結果(No.5B)(1/3)



表 4.2.3(6) 試験後の膜厚測定結果(No.5B)(2/3)



表 4.2.3(6) 試験後の膜厚測定結果(No.5B)(3/3)


表 4.2.3(7) 試験後の膜厚測定結果(No.6)(1/3)



表 4.2.3(7) 試験後の膜厚測定結果(No.6)(2/3)



表 4.2.3(7) 試験後の膜厚測定結果(No.6)(3/3)



表 4.2.3(8) 試験後の膜厚測定結果(No.7)(1/3)



表 4.2.3(8) 試験後の膜厚測定結果(No.7)(2/3)



表 4.2.3(8) 試験後の膜厚測定結果(No.7)(3/3)

# (4) 加熱後の付着性試験結果

電気炉加熱験後、200℃で実施した塗膜のように外観上大きな変化が見られない供試体に対して、付 着性能の低下の有無を確認するため、試験前と同様にクロスカット法による付着性試験を実施した。 実橋供試体における加熱試験前後の付着性試験結果を表4.2.4(1)~(8)に示す。

	供試体 No. 1 試驗結果		はく離状況	評価点
	下面		・各塗膜層間ではく離は生じて いない。	0
<b>武</b> 験 則	上面		・各塗膜層間ではく離は生じて いない。	0
	下面		<ul> <li>・各塗膜層間ではく離は生じて いない。</li> <li>・<u>加熱による付着性の低下は認</u> められない。</li> </ul>	0
試験後	上面		<ul> <li>・各塗膜層間ではく離は生じて いない。</li> <li>・加熱による付着性の低下は認 められない</li> </ul>	0

表 4.2.4(1) 加熱試験後の実橋供試体における付着性試験結果(No.1)

	供試体 No. 2	試験結果	はく離状況	評価点
	下面		<ul> <li>・中塗りと下塗りの間で一部は く離が生じている。</li> <li>・全体的なはく離面積は 10%未 満である。</li> </ul>	0
試験前	上面		<ul> <li>・中塗りと下塗りの間で一部は く離が生じている。</li> <li>・全体的なはく離面積は 10%未 満である。</li> </ul>	0
	下面		<ul> <li>・中塗りと下塗りの間で一部は く離が生じている。</li> <li>・全体的なはく離面積は10%未 満である。</li> <li>・<u>加熱によって付着性に若干の</u> 低下が認められる。</li> </ul>	1
試験後	上面		<ul> <li>・中塗りと下塗りの間で一部は く離が生じている。</li> <li>・はく離状況は加熱試験前と同 程度である。</li> <li>・<u>加熱による付着性の低下は認</u> <u>められない。</u></li> </ul>	0

表 4.2.4(2) 加熱試験後の実橋供試体における付着性試験結果(No.2)

	供試体 No. 3	試験結果	はく離状況	評価点
試験前	下面		<ul> <li>・各塗膜層間ではく離は生じていない。(塗装はプライマーのみ)</li> </ul>	0
	上面		<ul> <li>・中塗りと下塗りの間が大部分 ではく離している。</li> <li>・中・上塗りは、カットの時点 で剥がれた。</li> </ul>	3
	下面		・各塗膜層間ではく離は生じて いない。	0
試験後	上面		<ul> <li>・付着試験前から、塗膜表面に は浮き、割れがみられる。</li> <li>・中塗りと下塗りの間が全ては く離している。</li> <li>・中・上塗りは、カットの時点 で剥がれた。</li> <li>・上塗りと中塗りの間は、カッ トしていない部分でもセロハ ンテープによる強制はく離の みではく離している。</li> <li>・加熱試験前から付着性の低下 が見られ、加熱によってさら なる付着性の低下が認められ た。</li> </ul>	3

表 4.2.4(3) 加熱試験後の実橋供試体における付着性試験結果(No.3)

	供試体 No. 4 試験結果		はく離状況	評価点
試験前	下面		<ul> <li>・カット部で中塗りと下塗りと</li> <li>の間ではく離が生じている。</li> <li>・カット部の間でははく離が生じていない。</li> </ul>	2
	上面		<ul> <li>・カット部で中塗りと下塗りと</li> <li>の間ではく離が生じている。</li> <li>・カット部の間でははく離が生じていない。</li> <li>・はく離面積は、下面より大きい。</li> </ul>	2
試験後	下面		<ul> <li>・付着試験前から、塗膜表面に は浮き、割れがみられる。</li> <li>・中塗りと下塗りの間が全ては く離している。</li> <li>・中・上塗りは、カットの時点 で剥がれた。</li> <li>・上塗りと中塗りの間は、カッ ト」ていない部分でもセロハ</li> </ul>	3
	上面		<ul> <li>ンテープによる強制はく離の みではく離している。</li> <li>・加熱試験前から若干の付着性 の低下が見られ、加熱によっ てさらなる付着性の低下が認 められた。</li> </ul>	3

表 4.2.4(4) 加熱試験後の実橋供試体における付着性試験結果(No.4)

	供試体 No.5I	試験結果	はく離状況	評価点
試験前	下面		<ul> <li>・中塗りと下塗りとの間で全体的なはく離が生じている。</li> <li>・中・上塗りは、カットの時点で計がわた</li> </ul>	
	上面		<ul> <li>で剥がれた。</li> <li>・また、カット部では下塗りと 素地との間でもはく離が生じ ている。</li> </ul>	3
試験後	下面		<ul> <li>・付着試験前から、塗膜表面に は剥がれ、浮き、割れがみら れる。</li> <li>・中塗りと下塗りの間が全ては く離している。</li> <li>・中・上塗りが、カットの時点 で剥がれた。</li> </ul>	3
	上面		<ul> <li>・上塗りと中塗りの間は、カットしていない部分でもセロハンテープによる強制はく離のみではく離している。</li> <li>・加熱試験前から付着性が著しく低下しており、加熱によってさらなる付着性の低下が認められた。</li> </ul>	3

表 4.2.4(5)	加熱試験後の実橋供試体における付着性試験結果	(No. 5I)
1 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I		(100 O I)

	供試体 No. 5B	試験結果	はく離状況	評価点
試験前	下面		<ul> <li>・各塗膜層間ではく離は生じて いない</li> </ul>	0
	上面	e Andrew Contraction of the second se	<ul> <li>・中塗りと下塗りとの間で全体的なはく離が生じている。</li> <li>・中・上塗りは、カットの時点で剥がれた。</li> <li>・カット部では下塗りと素地との間でもはく離が生じている。</li> </ul>	3
試験後	下面		<ul> <li>・加熱試験前と比較して、カット部でのはく離が生じている。</li> <li>・<u>加熱によって付着性に若干の低下が認められ</u>た。</li> </ul>	1
	上面		<ul> <li>・付着試験前から、塗膜表面に は剥がれ、浮きがみられる。</li> <li>・中塗りと下塗りの間が全ては く離している。</li> <li>・中・上塗りは、カットの時点 で剥がれた。</li> <li>・上塗りと中塗りの間は、カッ トしていない部分でもセロハ ンテープによる強制はく離の みではく離している。</li> <li>・加熱試験前から付着性が著し く低下しており、加熱によっ てさらなる付着性の低下が認 められた。</li> </ul>	3

主 1 2 1(6)	加熱試験後の実场供試体における付差性試験結果	(No	5 B)
衣 4. 2. 4(0)	加熱執験後の美間供執件にわりる性有性執験結果	(NO.	O D

表 4.2.4(7)	加熱試験後の実橋供試体における付着性試験結果	(No. 6)
		(2101 0 )

	供試体	試験結果	はく離状況	評価
	No. 6			点
試	下面		<ul> <li>・カット部で中塗りと下塗りとの間ではく離が生じており、カット部の間でははく離が生じていない箇所もある。</li> <li>・はく離面積は 50%程度である</li> </ul>	2
<i>嗽</i> 前	上面		<ul> <li>・カット部で中塗りと下塗りとの間ではく離が生 じており、カット部の間でははく離が生じてい ない。</li> <li>・はく離面積は、30%程度で、下面より小さい。</li> </ul>	1
話	下面		<ul> <li>・付着試験前から、塗膜表面には浮きがみられる。</li> <li>・中塗りと下塗りの間が全てはく離している。</li> <li>・中・上塗りた、カットの時点で剥がれた。</li> <li>・上塗りと中塗りの間は、カットしていない部分でもセロハンテープによる強制はく離のみではく離している。</li> <li>・加熱試験前から付着性に若干の低下が見られ</li> </ul>	3
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	上面		加熱によってさらなる付着性の低下が認められた。	3

表 4.2.4(8) 加熱詞	ᡭ験後の実橋供試体におけ	ける付着性試験結果	(No. 7)
----------------	--------------	-----------	---------

	供試体	試験結果	はく離状況	評価
	No. 7			点
試	下面		<ul> <li>・中塗りと下塗りとの間の大部分ではく離が生じている。</li> <li>・カット部の間では、中・上塗りが残っている箇所もある。</li> <li>・上塗りと中塗りの間は、カットしていない部分でもセロハンテープによる強制はく離のみではく離している。</li> <li>・カット部では下塗りと素地との間でもはく離が生じている。</li> </ul>	3
<i>厥</i> 前	上面		<ul> <li>・上塗りと中塗りの間は、カットしていない部分 でもセロハンテープによる強制はく離のみでは く離している。</li> <li>・カット部の間では、中・上塗りがほとんど残っ ている。</li> <li>・中塗りと下塗りとのはく離面積は下面より小さ い。</li> <li>・カット部では下塗りと素地との間でもはく離が 生じている。</li> </ul>	3
試	下面		<ul> <li>・付着試験前から、塗膜表面には浮き、割れがみられる。</li> <li>・中塗りと下塗りの間ではく離が生じている。</li> <li>・中・上塗りは、カットの時点で剥がれた。</li> <li>・上塗りと中塗りの間は、カットしていない部分でもセロハンテープによる強制はく離のみではく離している</li> </ul>	3
一	上面		へ離している。     ・ <u>加熱試験前では上塗りと中塗りとの間で付着性</u> <u>の低下が見られ、加熱によって中塗りと下塗り</u> <u>との間の付着性が著しく低下した</u> 。	3

表 4.2.4 より、実橋供試体における加熱試験前後の付着試験結果による健全度の評価をまとめて表 4.2.5 に示す。

同表より、加熱試験前に付着性に問題が生じていなかった No.1 及び No.2 は、200℃加熱後において も表面に浮き、割れ等の変状は見られず、付着性の低下もみられない。No.3、No.51 及び No.5B は、加 熱試験前から付着性の低下が見られ、200℃加熱後は表面に割れや浮きなどの変状が認められ、付着性 は有していない結果となった。一方、No.4 及び No.6 は、加熱試験前に若干の付着力の低下が見られ、 200℃加熱後は表面に割れ等の変状が見られ、加熱試験前後で付着性の低下が生じた。さらに、No.7 については、加熱試験前は主に上塗りと中塗りの間のはく離による付着力の低下が見られて、加熱後 は下塗りと中塗りの間で全体的にはく離しており、加熱試験前後ともに付着性の評価点は3 であるも のの、中塗りからはく離が生じている点で付着性が低下しているといえる。

	-7-	加熱試験前		加索	热後	供求		
供試体	囲	評価点	付着性	評価点	付着性	佩ろ		
	下	0	$\bigcirc$	0	$\bigcirc$			
No.1	上	0	0	0	0			
N	下	0	0	1	0			
No.2	上	0	0	0	0			
N. a	下	0	(۞)	0	(۞)			
No.3	上	3	×	3	×			
	下	2	$\bigtriangleup$	3	×			
No.4	上	2	$\bigtriangleup$	3	×			
NT -T	下	3	×	3	×			
No.51	上	3	×	3	×			
N. 5D	下	0	(۞)	1	(())			
No.5B	上	3	×	3	×			
	下	2	$\bigtriangleup$	3	×			
No.6	上	1	0	3	×			
	下	3	×	3	×	加熱試験前は上塗りと中塗りの間のはく離であるが 加熱		
No.7	Ŀ	3	×	3	×	後は下塗りと中塗りの間では く離している		

表 4.2.5 実橋供試体における加熱試験前の付着性試験結果一覧

### (5)まとめ

### ①塗膜の変状

実橋供試体における電気炉加熱試験の塗膜損傷は、いずれの供試体においても上塗りが炭化して灰化する過程で剥がれながら、下塗りが変色する状況であった。鋼板供試体と比較すると、上塗り、中塗りの剥がれや変色の温度などのばらつきが大きく、下塗りが変色する温度もそれぞれ異なる結果となった。実橋供試体では、表4.2.6及び表4.2.7に示したとおり、200~400℃で上塗りの炭化、剥がれ(変状2)が生じ、500~600℃に至るまでに下塗りに変色等(変状4)が生じる結果であった。





表 4.2.7(1) 塗膜の変状(実橋供試体・電気炉加熱試験・上面)

温度 (℃)	1	2	3	4	51	5B	6	7
加熱 試 験 前								
200								
	1)		1)	2	2	(]	1)	1)
300								
	2	2	1	⑤濃い茶色	⑤黒	5黒	5黒	5
400								
	3		2	⑤黒	5	5	5	⑤茶色
			as fre		57-53		(Correct)	AN VI
500	4			A L	and the second			
500	4	<ul><li>⑤淡い茶色</li></ul>	2	⑤薄茶色	5	<ul><li>(1)</li><li>(3)</li><li>(3)</li><li>(3)</li><li>(4)</li><li>(5)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)</li><li>(7)(7)(7)(7)(7)(7)(7)(7)</li></ul>	<ul><li>⑤淡い茶色</li></ul>	5
500 600		<ul> <li>⑤ 淡い茶色</li> <li>⑥ 淡い茶色</li> </ul>	2 2 2	⑤薄茶色	5 (5)	⑤淡い茶色	⑤淡い茶色	5 5
600	<ul> <li>(5)薄い茶色</li> </ul>	<ul> <li>⑤淡い茶色</li> <li>⑤淡に茶色</li> <li>⑤薄茶色</li> </ul>	2	<ul> <li>⑤薄茶色</li> <li>⑥</li> <li>⑥</li> <li>⑦</li> <li>⑦</li> <li>⑦</li> <li>⑤</li> </ul>	⑤       ⑤	⑤淡い茶色         ⑤濃い茶色         ⑤濃い茶色	<ul><li>⑤淡い茶色</li><li>⑥淡い茶色</li><li>⑤</li></ul>	<ul> <li>⑤</li> <li>⑤赤みがかった茶色</li> </ul>
500 600 700	(1)     (1)       (5)薄い茶色	<ul> <li>⑤ 淡い茶色</li> <li>⑤ 淡い茶色</li> <li>⑤ 薄茶色</li> <li>⑥ 薄茶色</li> </ul>		⑤薄茶色         ⑤         ⑤         ⑤         ⑤         ⑤	<ul> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>⑥</li> <li>⑥</li> <li>淡い茶色</li> </ul>	⑤淡い茶色         ⑤淡い茶色         ⑤濃い茶色         ⑥濃い茶色	⑤淡い茶色         ⑤淡い茶色         ⑤         ⑤         ⑤         ⑤	<ul> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>⑤</li> <li>ホみがかった茶色</li> <li>○</li> <li< td=""></li<></ul>

温度 2 7 1 3 4 51 5B 6 (°C) 加熱 試験 前 200 2 (1)2 (1)(1)300 ⑤濃い茶色 ⑤黒 3 ⑤黒 2 2 (4) 400 ⑤薄い茶色 ①茶色 ⑤黒 5 (5)⑤茶色 4 3 500⑤赤みがかっ ⑤淡い茶色 (1)⑤薄茶色 ⑤淡い茶色 ⑤淡い茶色 4⑤淡い茶色 た茶色 -600 ⑤薄い茶色 6 5 ⑤濃い茶色 5 5 5 5 700 ⑤淡い茶色 6 (5)⑤緑 6 6 5 5

表 4.2.7(2) 塗膜の変状(実橋供試体・電気炉加熱試験・下面)

### ②塗膜の変状と付着の関係

前述した塗膜の変状の段階を、加熱試験前の付着性の良・不良に分けて比較した結果を図 4.2.4 に 示す。これらの結果から、付着性がよい鋼板は、400~500℃で下塗りが変色(変状 5)しているのに 対して、付着性が悪い鋼板は 200~300℃で下塗りが変色している傾向であった。



付着性良好	(加熱試験前評価点	0)
	(MENUE WOULDED HEINU	$\sim$ /

	1	2	3	4	5I	5B	6	7
評価点	0	0	3	2	3	3	1	3
付着性	$\bigcirc$	$\bigcirc$	×	Δ	×	×	0	×



加熱温度(°C)

付着性不良(加熱試験前評価点1~3) 付着性評価一覧(加熱後)

	1	2	3	4	5I	5B	6	7
評価点	0	1	3	3	3	3	3	3
付着性	0	0	×	×	×	×	×	×

図 4.2.4(1) 付着と塗膜の変状の関係(上面・電気炉加熱試験)





	1	2	3	4	5I	5B	6	7
評価点	0	0	0	2	3	0	2	3
付着性	$\bigcirc$	$\bigcirc$	(@)	$\triangle$	×	(@)	$\triangle$	×



# 加熱温度(℃)



付着性評価一覧(加熱後)

	1	2	3	4	5I	5B	6	7
評価点	0	0	0	3	3	1	3	3
付着性	Ô	0	(@)	×	×	0	×	×

図4.2.4(2) 付着と塗膜の変状の関係(下面・電気炉加熱試験)